

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

ウイング フィールド

TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL <http://wing-f.main.jp/>

「大竹野正典劇集成」を楽しむ 一緒に読んでみよう7

特別バージョン

5/5(日) 1:00

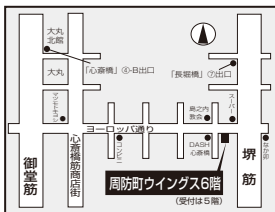
「黄昏ワルツ — 吹き飛ばされそなダンボール三つ —」

くじら「本」会議

*予約制 会費/大人 1,000円 学生 500円

現在、ワークショップなどを企画、準備中です。

詳細はホームページにて随時発表しますのでご確認ください。



次代を担う表現活動を、微力ながら支援します。

す お う ま ち
周防町ウイングス

第 21 回関西現代演劇俳優賞 (1)

太田 耕人

第 21 回関西現代演劇俳優賞受賞者

〈女優賞〉金子順子 (コズミックシアター)
・空の驛舎「かえりみちの木」山本役

〈男優賞〉高口真吾
・清流劇場「Andorra アンドラ」アンドリ役

〈奨励賞〉古谷ちさ (空晴)
・空晴「となりのところ」女性役
・空晴+南河内万歳一座☆オールスターズ「隠れ家」ミナミ役

他の最終候補者 [50音順]

〈女優賞候補〉安部聡子 (地点)、今井佐知子、樫村千晶、森万紀 (以上、兵庫県立ピッコロ劇団)
〈男優賞候補〉うえだひろし (リリパットアーミーII)、小坂浩之、小林洋平 (地点)、上瀧昇一郎 (空晴)、永野宗典 (ヨーロッパ企画)、森好文 (兵庫県立ピッコロ劇団)
〈奨励賞候補〉なし

受賞者についての講評は次号に譲り、本号では主に最終候補の方々に言及しておきたい。

役によって全く違う人物に見せるのが俳優たる者の本領であろうが、容貌や声など限界があるのは致し方ない。ところが、役作りの引出しをあまた持つ俳優が、役が憑依したかのごとく舞台に立つと、そうした限界を超えて「別人」になることがある。

今井佐知子は「マルーンの長い道」で年輩の家政婦を軽妙に演じ、「小さなエイヨルフ」では禁欲的で深くものを考える若い女性を造形した。文字通りの「別人」である。上瀧昇一郎は家父長的な役割を付与されてきたが、対照的に「となりのところ」では頼りない工務店の従業員を好演。男優賞受賞の高口真吾は、かつてギリシア悲劇の英雄を朗々と語り上げ、今回は苦悩する現代青年を繊細に描きだした。

役を生きるのにおそらく最も困難なのは、その言葉をいま思いついたかのように、身体を通して発すことだろう (女優賞の金子順子への称賛はまさにその点に与えられる)。「808 ダイエット」でホームレス役の小坂浩之が、マネキンの恋人に話しかける台詞には、今まさに身体から出た言葉と思える瞬間があった。

さて、近代劇は主役を中心に置くが、現代劇には群像劇の傾向がある。当然、演技も一人が際立つのでなくアンサンブルがとれた集団演技の形をとる。とはいえ、集団の中の俳優に個性がないわけではない。たとえば、地点の安部聡子のつややかな声、しなやかな身体、独特な台詞回し。同じく小林洋平の活発に動く身体、多彩な調子の台詞。ヨーロッパ企画の永野宗典の何かやらかしそうな存在感。集団演技の特性を踏まえつつ、集団の中の各人の独自性が評価されて然るべきだと感じる。

(敬称略)

(演劇評論家)

— 第 21 回関西現代演劇俳優賞 (2) は次号、九鬼葉子が担当 —